

「学校マネジメント4つの観点」に係る評価基準によるS A B評価の際のポイント

領域	S	A
観 点 Ⅰ	① 「誰が」「何を」「どのくらいの頻度で」行うかを、重点的取組ごとに過不足なく、的確な内容で具体的に書き込んだ取組指標が設定されている。 ② 「学校評価の4点セット」の4点が整合的かつ連動するものであり、これに検証・改善を加えることで成果に繋がるものとなっている。	① 「誰が」「何を」「どのくらいの頻度で」行うかを可能な限り書き込んだ具体的な取組指標が設定されている。 ② 取組の先に児童生徒の変容（＝重点目標の達成に近づく）をイメージできる取組指標を設定している。 ③ 取組状況を定期的に把握でき、短期の検証に適した取組指標を設定している。
観 点 Ⅱ	① 短期の検証・改善を積み重ねるとともに、年度を跨いだ継続性のある検証・改善を行っている。 ② ①の結果、重点目標等に照らして右肩上がりの成果を出している。	① 各種調査結果等の客観的なデータを用いて、プランP. 15に記載の手順により、的確かつ短期（少なくとも学期に1回）の検証・改善を行っている。 〈留意事項〉 ・「学校評価の4点セット」の設定に係る観点ⅠをB評価とした場合には、検証・改善の妥当性に疑義が生じうることに留意する必要がある。
観 点 Ⅲ	① 目標達成に向けた組織的取組が実働（効果的に機能）し、成果を出していることが具体の事例として確認できる。 〈任意ポイント〉 ・学校訪問等で、各種目標や取組状況について主要主任がしっかりと説明することができる。 ・主要主任等の目標管理シートにおいて、重点目標、分掌等目標、自己目標の連動が確認できる。	① 管理職等が教職員評価システムの趣旨や仕組みについて教職員に十分周知している。 ② 主任等が学校の重点目標、分掌等目標、自己目標の連動について、目標設定時・進捗管理等において時宜を捉えて指導・助言を行っている。
観 点 Ⅳ	① 養護教諭、学校事務職員等の少数職種を含む教職員や専門スタッフ等が、必要に応じて関係機関とも連携しながら、チームとして実働（効果的に機能）し、成果を出していることが具体の事例として確認できる。	① 養護教諭、学校事務職員等の少数職種を含む教職員や専門スタッフ等が組織図や校務分掌表等に位置づけられている。 ② ①の位置づけに沿って学校の目標達成や個別課題解決に向けて組織的に取り組む体制が構築されている。

このポイントは、平成29年9月25日から適用する。